

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 "FAB" **E-mail** fsupport@oita-u.ac.jp **URL** http://www.fab.oita-u.ac.jp/



## 理事ご挨拶 男女共同参画と本学の使命の達成

嘉目 克彦 理事(総務担当)

本学では、平成22年度より文部科学省科学技術振興調整費による「女性研究者支援モデル育成事業」として「地域社会で育む『輝く女性研究者支援』」プログラムがスタートし、同年7月に開設された大分大学女性研究者サポート室を中心に各種の支援活動が鋭意進められています。スタッフを陣頭指揮する室長、松浦学長補佐の熱意とエネルギッシュな行動力でこのプログラムが今後着実に進捗することは確実です。もとより本プログラムは大学における幅広い男女共同参画推進事業の主要な一環として推進すべきもので、他にも例えば大学運営における意思決定や地域との

連携活動における男女共同参画、あるいは男女共同参画に関する啓発活動なども重要であり、またこうした各種の事業を推進する実施体制の整備も不可欠です。平成22年10月に制定・発表した男女共同参画推進宣言と行動計画において、本学はこうした課題を明記し、その達成に対する決意を国民に向けて表明しました。大分大学憲章で謳われた本学の基本理念と目標及び運営方針はいずれも男女共同参画の基盤を前提とするものであることを、遅まきながら高らかに宣言したのです。同時に設置された学長を本部長とする大分大学男女共同参画推進本部の方針を踏まえ、本学のすべての構成員が、この決意を胸にわれわれのミッションの達成に向けて今後の一層の努力を続けることを願ってやみません。

## 「1月19日」大分大学男女共同参画公開講座 『女性研究者の活躍とワークライフバランス』を開催しました

大分全日空ホテルにおいて、大分大学男女共同参画公開講座「女性研究者の活躍とワークライフバランス」を開催し、県内の自治体や団体、本学および他大学関係者、一般市民が参加しました。

松浦恵子女性研究者サポート室長による、大分大学の女性研究者支援事業についての説明の後、中川幹子診療教授(医学部)と都甲由紀子講師(教育福祉科学部)が、奨励賞等受賞の対象となった研究について発表を行いました。

特別講演では、国際ジャーナリスト・キャスターであり明治大学国際日本学部教授・学部長でもある蟹瀬誠一氏が「幸せはワークライフバランスから」と題し、講演されました。蟹瀬氏は、夫婦で働きながら子育てした経験を織り交ぜながら、「育児」ではなく「育自」、「共働き」ではなく「共育て」と、視点を変えて言葉を捉えることで人間は意識や考え方が変わる。言葉は非常に重要であると強調されました。





# 特集 介護に係る勤務時間、 休業についてご存知ですか？

大分大学では、要介護状態にある家族を介護する職員が利用できる制度に以下のものがあります。

## 【要介護状態とは】

負傷、疾病または身体上若しくは精神上の障害により、2週間以上にわたり常時介護を必要とする状態

### 「介護休業」

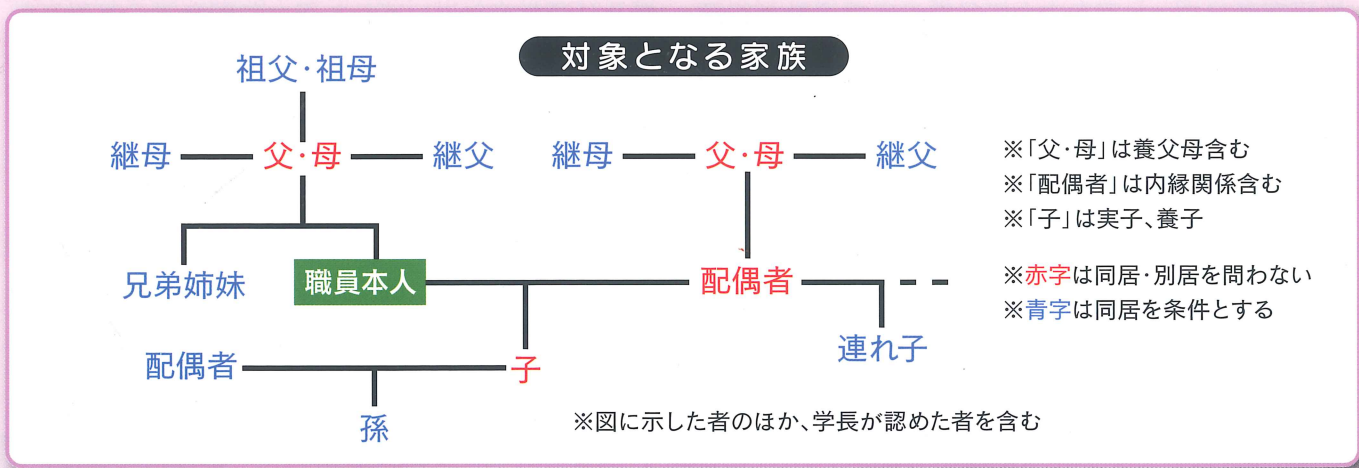
期間は対象家族一人につき、一の介護状態に至るごとに1回、連続する186日の範囲内(当該対象家族に対し、介護部分休業取得者はそれと通算して186日まで)。

### 「介護部分休業」

連続した4時間の範囲内で1時間単位で取る休業である。期間は、対象家族一人につき、一の介護状態に至るごとに1回、連続する186日の範囲内(当該対象家族に対し、介護休業取得者はそれと通算して186日まで)

「時間外勤務の制限」 1月について24時間、1年について150時間までの制限

「深夜勤務の制限」 午後10時から翌日午前5時までの勤務の制限

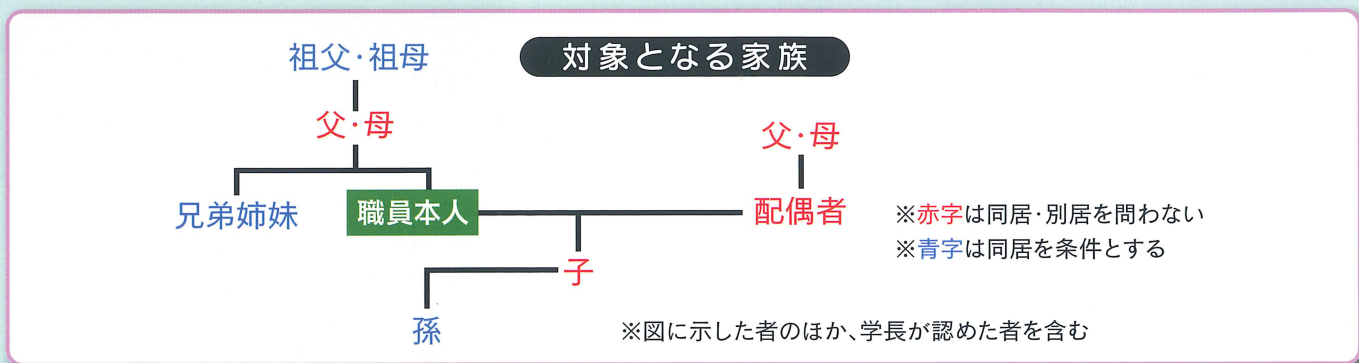


### 「特別休暇」

介護、通院等の付き添い、介護サービスの提供を受けるために必要な手続きの代行その他の必要な世話をを行う場合にこの休暇である。

## 【休暇期間】

要介護状態にある家族が、  
1人の場合：一の年において5日の範囲内の期間  
2人以上の場合：一の年において10日の範囲内の期間



詳細については大分大学の就業規則等をご覧ください。  
不明な点があれば総務部人事課までお問い合わせください。

※ここに挙げた制度は、大分大学常勤教職員に係るものです。  
非常勤職員については就業規則等をご覧ください。

参照  
 国立大学法人大分大学職員就業規則(平成16年4月1日制定)  
 国立大学法人大分大学職員の介護休業等に関する規程(平成16年4月1日制定)  
 国立大学法人大分大学に勤務する職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規程(平成16年4月1日制定)  
 国立大学法人大分大学職員の育児又は介護を行う職員の時間外勤務の免除および制限に関する規程(平成16年4月1日制定)  
 国立大学法人大分大学職員の育児又は介護を行う職員の深夜勤務の制限に関する規程(平成16年4月1日制定)



## 意識啓発

### 「12月6日」男女共同参画トップセミナーを開催しました



管理職を対象に、長崎大学の大井久美子 副学長・男女共同参画推進センター長による「男女共同参画のすすめ—推進する力とたちはだかる壁—」と題した講演が行われました。

長崎大学は平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業に採択されており、大井氏は最終年度となる今年度までの活動を総括して話されました。事業推進体制の構築やポジティブアクションの策定、さらにはテクニカルスタッフ雇用制度や育児支援等の具体的活動に触れながら、活動の成果やいまだ残る課題について詳しく説明していただき、立ちはだかる壁に対しいかに推し進めていったかということを力強く述べられました。

### 「1月11日」経済学部での第2回目学部別セミナーを行いました

経済学部の教員を対象に学部別セミナーを開催、講師として、大分労働局の松永涼子雇用均等室長をお迎えし、「ポジティブアクションのすすめ」と題してご講演いただきました。

松永室長は、ポジティブアクションの必要性や企業の取組み状況について説明された上で、他大学での取組みを紹介し、本学でも積極的な取組みが行われることを期待していると述べられました。



### 「1月18日」教育福祉科学部で女性研究者支援に関するセミナーを開催しました



教育福祉科学部の教員を対象に女性研究者支援に関するセミナーを開催し、松浦恵子女性研究者サポート室長が講師を務めました。

まず、日本における女性研究者の状況や女性研究者が少ない理由を説明しました。さらに、本学における女性研究者支援事業の背景には国の方針および当大学の掲げた目標があり、この支援事業によって女性研究者が活躍することは大学にとってプラスになると述べ、さらなる支援活動への協力を求めました。

### 「2月1日」教養教育科目で、男女共同参画の講義を行いました

全学共通科目「職業とキャリア開発」に、下郡恵美子キャリア・コンサルタントを講師に迎え、「少しずつ歩みよりの協働～未来志向の男女共同参画～」という題目で講義が行われました。

下郡氏は、約160名の全学年の学生を対象に、「おおいた若者サポートセンター」等での就職支援業務の経験を踏まえた具体的な内容で、これからの社会を背負う学生たちに、性別や世代にこだわらない生き方の重要性を訴えました。



## 情報交換 「12月6日」第2回FABキャリア交流会を開催しました

男女共同参画トップセミナーの後、講師の大井久美子氏を囲んで、第2回FABキャリア交流会を開催しました。

長崎大学での女性研究者支援や男女共同参画推進の取組みを参考にしながら、大分大学でもどのように展開していけるかをメインテーマに話し合い、参加した理事や協力教員、大学院生が率直な感想を述べるなどして、有意義な交流会となりました。



## キャリアアップ

### 「2月17日」

医学部臨床大講義室において、「英語論文の書き方セミナー」を開催しました。医学部の教職員と大学院生を中心に約40名が参加しました。

エダズグループジャパン(株)のWarren Raye講師が、「エディターからの英語論文に関するアドバイス」と題して、Session1、Session2、Workshopの項目に分けて、具体的かつ実践的な英語論文の書き方について説明を行いました。



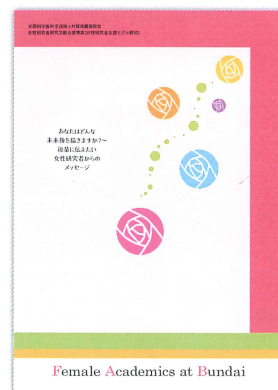
## INFORMATION

### 「1月24日」

## ロールモデル誌「大分大学の輝く女性研究者」を発行しました

この冊子では、大分大学で活躍する女性研究者90名の中から、19人の方を紹介しています。

研究の内容や、進路選択のきっかけ、後輩へのメッセージなどを掲載しています。





# 大分大学の輝く女性研究者(4)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員90名、大学院生173名)(平成23年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第4回目は、教育福祉科学部の栗栖由美子 教授と経済学部の松岡輝美 准教授を紹介します。



教育福祉科学部  
教授 栗栖由美子さん

## 【略歴】

島根県出身。東京芸術大学音楽学部大学院後期博士課程修了。オランダ・スウェーリンク音楽院で2年間研鑽を積み、平成10年、大分大学教育学部へ赴任、現在に至る。

## 研究の内容は?

声楽、声種はソプラノです。バロック(1600~1750年頃)時代の歌唱法について研究しています。学部、大学院においては、声楽一般、合唱の授業を担当し、身体の構造に着目しながら、発声法を模索するとともに、声による表現の可能性を追求しています。

## 進路決定のきっかけは?

大学院入学直後、バロック時代の声楽作品を、オリジナル楽器で演奏するというプロジェクトに関わりました。その当時は、まだバロック・声楽に関しての資料や音源が少なく、研究途上の段階でしたが、プロジェクトで音楽監督を務めていらした先生の、バロック時代の文献をひも解きながら、その時代の音像を再現しようとする研究スタイルに魅了されました。

## 研究の魅力は?

バロック時代の声楽に関しては、楽器のような物として伝わる資料がないとともに、当時の歌唱技術の伝統が1度途切れてしまっているため、その歌唱技術を探るには、当時の文献に頼らざるをえません。文章は難解ですし、楽譜も、現代のようなト音記号で書かれているのではなく、作曲家の自筆譜や、判で押された楽譜のため、大変読みづらいのですが、埋もれた美しい作品を発見し、その音を再現することは、とても楽しいことです。

## 後輩へのアドバイスは?

「おおいに回り道をしなさい!」この言葉は、博士課程に入学して間もなく、指導教授であった音楽学の先生から頂いた言葉です。研究結果を早急に求めるのではなく、時間をかけて、様々なアプローチをする中から、答えを導き出していくことの大切さを学びました。研究者のみならず、どのような方向に進んでも、重要なことかと思えます。

## ワークライフバランスについて

自分自身が歌い、声楽を指導するという立場上、年間を通じて風邪をひくことができません。日々、体調管理には気をつけています。まとまったお休みがいただけると、日本、海外を問わず、旅行に出かけますが、仕事で行き詰った時など、次の旅行のプランを立てて気分転換をしています。



経済学部  
経営システム学科  
准教授 松岡輝美さん

## 【略歴】

1988年3月に西南学院大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得満期退学、同年4月から岡山商科大学商学部にて財務管理論・オフィスオートメーション論・演習を担当し、2000年から大分大学経済学部経営システム学科所属。

## 研究の内容は?

学部・大学院共に経営情報論を担当しています。ICT(情報通信技術)を活用した企業経営の分析と現実的で実効的なモデルを構築することを目的に研究しています。

## 進路決定のきっかけは?

学部時代に教授に大学院に進学しないかと何度か勧誘を受けました。いったんは就職しましたが、就職後も勧誘を受け、自分でも改めてもっと勉強したいと言う思いが湧き、マスターに入学しました。マスター修了後は外資系企業の研究所に再就職しようと考えていましたが、教授にドクターに進学してはとさらに勧誘を受け、とうとう5年間大学院で勉強することになりました。

## 研究の魅力は?

自分の心をピュアにして、観察し、思考分析し、創意工夫するクリエイティブなプロセスが魅力です。「人生で苦しい時ほどたくさん勉強しなさい。学問はうらぎらないから。」という言葉は主任教授からいただき、その通りだと思えます。人生でいろんな困難に遭遇しましたが、心身が疲れきっているときも、研究活動が理性や倫理や知的好奇心や創造力を呼び覚まして、心を浄化してくれます。

## 後輩へのアドバイスは?

研究には資金が必要です。奨学金や民間企業からの研究助成金を得て、院生時代はアルバイトに時間を取られず、勉強だけに打ち込める環境を作ることです。次に自分の研究分野のトレンドを見極め、目標を定めて学会発表や学会誌への論文投稿をして研究業績を積み重ねることです。

## ワークライフバランスについて

結婚後、仕事をしながら子育てと病気の義父母や実父の介護をして、30代の10年間は実に忙しく過ごしました。夫も残業が多く忙しい年代でしたが、家事や育児を当たり前のこととして、ごく自然に分担してくれました。また困った時に友人が助けてくれたことも救いでした。時間を有効に使うことを意識し、夫や妻のどちらか一方が過剰に無理を抱え込みすぎないように夫婦ともに気遣い、パートナーとお互いに思いやり助け合える関係を築いていくことが何よりも大切です。

## 「女性研究者サポート室のキャラクターが誕生しました」

イメージキャラクターの名前は「FAB子(ふあぶこ)」ちゃんです。研究職に憧れ、女性研究者についていろいろな知識を持っている中学生です。進学を考える中・高校生に、女性研究者について広く知ってもらいたい、頑張ってもらいたいと思います。



編集・発行元 / 発行日 2012年3月  
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 "FAB" Female Academics at Bundai  
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL (097) 554-8573 FAX (097) 554-6039  
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/

